

# 標十五句

松岡隆子選

山ぎはに幻月かかる菊脛  
話に夢中コートの釦かけちがふ  
極月の納め達磨に火の柱  
極月の間診表に真向へり  
母在らば綿入れ縫うてゐる頃か  
極月の修理へ外す腕時計  
憶ひてはまた枯菊の炎を立たす  
風音が雨とななる夜の白障子  
茶屋街を濡らして冬の雨白し  
下草に枯蠟螂の身構へる  
大川の何をよすがに風の鴨  
羽ばたきの隣の鴨へ移りけり  
探し物しての湯ざめをしてをりぬ  
雲一つあればよろしき神の旅  
又三郎連れて北風吹く岩手山

峰岸よし子  
濱地恵理子  
佐藤郭子  
齋藤充  
別府優  
染谷晴子  
松原ふみ子  
川上昌子  
稲田節子  
内山けい子  
早川紀子  
平沢千恵子  
中島紀子  
田坂孝志  
東海林よしえ